



<https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro>

急性リウマチ熱とレンサ球菌感染後反応性関節炎

版 2016

3. 日常生活

3.1 この病気にかかったためにその子と家族にはどのような影響が出ますか？

リウマチ熱に罹ったほとんどの子ども達は適切な治療と定期的な検診により通常の生活が可能です。しかし、心炎と舞蹈病が合併した際には、家族の協力が必要です。大切なことは長期間に及ぶ抗菌薬予防内服を続けることが出来るかどうかです。特に青年期の患者にはプライマリーケアと再発予防の教育は非常に大切です。

3.2 学校生活はどのようにすれば良いのでしょうか？

心疾患の後遺症がなければ日常生活、学校生活には特別な制限もなく、全ての活動が可能です。両親、学校の先生方は普通通りの学校活動に参加させるように協力しますが、これは学業だけでなく、友人や大人に対して礼儀や感謝の念なども学ぶ機会だからです。舞蹈病の急性期には学校生活が少し制限されることも予想されますので、両親や教師は1-6か月間は見守ってあげましょう。

スポーツは可能ですか？

全ての子どもたちにとってスポーツは日常生活で最も大切な要素の一つです。治療の目的のひとつは出来るだけ普通の子供達と同じ生活をさせることです。ですから全ての活動はできる限り参加させましょう。ただし、急性期だけは厳しい運動制限と安静が必要です。

3.2 食事で注意することがありますか？

食事が病気に影響することはありません。一般には年齢に応じたバランスの良い、普通の食事を楽しんでください。発達過程にある子供たちにはたんぱく質、カルシウム、ビタミンを十分に含んだバランスの良い食事が勧められます。ステロイド薬を服用している場合には食欲が増していますので食べ過ぎに注意です。

3.5 天候がリウマチ熱に影響することがありますか？

特別な影響はないと思います。

3.6 ワクチンは受けられますか？

ワクチンを受けて良いかどうかは、個々の症例によって異なります。一般にはワクチンによって症状が悪化したり、ワクチンの副作用が強くなることはありません。しかし、多量の免疫抑制薬、ステロイド薬、生物学的製剤を使用している間は感染症の危険が強くなる可能性があるため、生ワクチンの接種は避けるべきです。不活化ワクチンは免疫抑制薬を使っている場合でも安全と考えられていますが、ワクチンの稀な副作用に関する報告が全て病気と関係しないと言い切ることもできません。

多量の免疫抑制薬を使用している場合、ワクチンによって抗体ができるかなどについては主治医に相談してください。

3.7 性生活、妊娠、出産に対する影響がありますか？

この疾患による性生活、妊娠、出産の制限はありません。しかし、何らかの治療を受けているすべての患者さんは、その薬剤の胎児への影響には注意しておかなければなりません。そのため産児調節・妊娠については主治医によく相談しておくことが大切です。